

10/625,878

N

PAT-NO: JP408329156A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08329156 A

TITLE: ORGANIZATION CHART PROCESSOR

PUBN-DATE: December 13, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

INOUE, MASAHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

CASIO COMPUT CO LTD

N/A

APPL-NO: JP07155245

APPL-DATE: May 29, 1995

INT-CL (IPC): G06F017/60, G06F017/27, G06F017/50

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide an **organization chart processor displaying an organization chart by a tree structure so that the position of a specified employee in the whole belonging organization** and the personal information of the employee can be simultaneously observed.

CONSTITUTION: At the time of inquiry processing, a CPU 2 allows an organization chart preparing processing part 8 to prepare a hierarchical table based upon various data stored in a section table file 9a and an employee master file 9b in a file memory 9 and related to an organization, develop the table in an image memory 10 and display the table on a display part 12. An inquiry processing control part 7 reads out an employee's face image or personal information from a face photograph file 9c or the employee master file 9b in accordance with a display position specification by a pointing device 4, displays the read contents on an organization chart, and in response to an end position specification, specifies a retrieving range, retrieves data corresponding to an input retrieving condition in the retrieving range from the file 9b and changes the display color of the employee's name concerned on the organization chart.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-329156

(43)公開日 平成8年(1996)12月13日

(51)Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/60			G 0 6 F 15/21	Z
17/27		9288-5L	15/20	5 5 0 F
17/50			15/60	5 0 6 D

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 13 頁)

(21)出願番号 特願平7-155245

(22)出願日 平成7年(1995)5月29日

(71)出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

(72)発明者 井上 正広

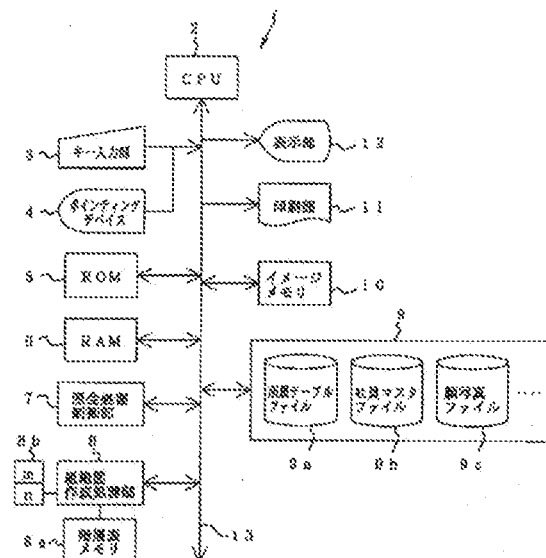
東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
計算機株式会社羽村技術センター内

(54)【発明の名称】 組織図処理装置

(57)【要約】

【目的】 本発明は、ツリー構造で組織図を表示して、指定された特定社員について所属の組織全体のなかの位置付けと、社員個人の情報を同時に見られるように表示する組織図処理装置を提供することである。

【構成】 CPU 2は、照会処理に際して組織図作成処理部8により、ファイルメモリ9内の所属テーブルファイル9a及び社員マスタファイル9bに格納された組織に係る各種データに基づいて階層表を作成させてイメージメモリ10に展開させて表示部12に表示させた後、照会処理制御部7により、ポインティングデバイス4による表示位置指定に応じて社員の顔イメージや個人情報を顔写真ファイル9c又は社員マスタファイル9bから読み出して組織図上に表示させ、また、終了位置指定に応じて検索対象範囲を特定し、その検索対象範囲での入力検索条件に該当するデータを社員マスタファイル9b内で検索し、組織図上で該当社員名の表示色を変更表示させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報を記憶する組織情報記憶手段と、

各組織構成員がどの組織に接続するのかわを示す所属情報を、各組織構成員毎に記憶する所属情報記憶手段と、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報を記憶する個人情報記憶手段と、

前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図を作成して表示する組織図表示手段と、

この表示された組織図上に表示される組織構成員を指示する指示手段と、

指示された組織構成員に対応する個人情報を前記個人情報記憶手段から呼出して表示する個人情報表示手段と、を具備したことを特徴とする組織図処理装置。

【請求項2】複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報を記憶する組織情報記憶手段と、

各組織構成員がどの組織に接続するのかわを示す所属情報を、各組織構成員毎に記憶する所属情報記憶手段と、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報を記憶する個人情報記憶手段と、

前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図を作成して表示する組織図表示手段と、

この表示された組織図上で、対象とする組織の表示位置を指定する位置指定手段と、

組織構成員に関する個人情報を利用した検索条件を指示する指示手段と、

この指示された検索条件に合致する組織構成員を前記個人除法記憶手段から抽出する抽出手段と、

この抽出された組織構成員の表示位置を識別表示する識別表示手段と、

を具備したことを特徴とする組織図処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ツリー構造を持つ組織図の表示に際して、指定項目に対応する情報を表示する機能と、指定検索条件に該当する項目を識別表示する機能を有する組織図処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、データベースの検索機能を搭載したアプリケーションプログラムが多く利用されているが、人事情報システムもその一つである。この人事情報システムでは、特定の社員を指定した場合、人事データベースの中からその個人情報を検索して表示／印刷したり、また、特定の検索条件によって該当する社員の一覧

表を表示／印刷するといった情報照会機能を有している。

【0003】これらの情報照会機能においては、従来はキーボードから社員番号を入力して、該当データを人事データベースから検索してその内容を表示する方法が一般的である。また、特定の資格や入社年度による社員の一覧表示においても、その検索条件をキーボードから入力することにより、その検索結果として氏名や所属名が一覧表示される場合が多い。

10 【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来のデータベースの検索機能を搭載したアプリケーションプログラムとしての人事情報システムにあっては、特定社員の内容表示や検索条件に該当する社員一覧表示が行われるだけであったため、以下に述べるような問題点があった。

【0005】すなわち、企業においては、社員と組織（所属）とは密接な関係があり、ある部門の構成員の能力、資格、在籍年数等は組織上の位置と関連づけて見たい場合が多く、上記のように単なる一覧表として平面的に表示されるだけでは、組織と詳細な個人情報との関係を把握しにくいという問題点があった。

【0006】本発明の課題は、ツリー構造で組織図を表示して、指定された特定社員について所属の組織全体のなかの位置付けと、社員個人の情報を同時に見られるように表示する組織図処理装置を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明の組織図処理装置は、複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報を記憶する組織情報記憶手段と、各組織構成員がどの組織に接続するのかわを示す所属情報を、各組織構成員毎に記憶する所属情報記憶手段と、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報を記憶する個人情報記憶手段と、前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図を作成して表示する組織図表示手段と、この表示された組織図上に表示される組織構成員を指示する指示手段と、指示された組織構成員に対応する個人情報を前記個人情報記憶手段から呼出して表示する個人情報表示手段と、を具備したことを特徴としている。

【0008】請求項2記載の発明の組織図処理装置は、複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報を記憶する組織情報記憶手段と、各組織構成員がどの組織に接続するのかわを示す所属情報を、各組織構成員毎に記憶する所属情報記憶手段と、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報を記憶する個人情報記憶手段と、前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織

が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図を作成して表示する組織図表示手段と、この表示された組織図上で、対象とする組織の表示位置を指定する位置指定手段と、組織構成員に関する個人情報を利用した検索条件を指示する指示手段と、この指示された検索条件に合致する組織構成員を前記個人除法記憶手段から抽出する抽出手段と、この抽出された組織構成員の表示位置を識別表示する識別表示手段と、を具備したことを特徴としている。

【0009】

【作用】請求項1記載の発明の組織図処理装置によれば、複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報が組織情報記憶手段に記憶され、各組織構成員がどの組織に接続するのを示す所属情報が、各組織構成員毎に所属情報記憶手段に記憶され、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報が個人情報記憶手段に記憶され、組織図表示手段により、前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図が作成されて表示され、指示手段により、この表示された組織図上に表示される組織構成員が指示されると、個人情報表示手段により、指示された組織構成員に対応する個人情報が前記個人情報記憶手段から呼出されて表示される。

【0010】したがって、階層表示された組織図上で指定した構成員の個人情報を同時に表示することができ、組織上の位置と個人情報の関係を把握し易く表示することができ、人事情報データベースを利用したデータ照会機能の向上と有効利用を図ることができる。

【0011】請求項2記載の発明の組織図処理装置によれば、複数の組織に区分され、各組織毎に組織コードと他の組織との接続関係情報が組織情報記憶手段に記憶され、各組織構成員がどの組織に接続するのを示す所属情報が、各組織構成員毎に所属情報記憶手段に記憶され、前記各組織構成員毎に、その組織構成員に関する情報が個人情報記憶手段に記憶され、組織図表示手段により、前記各組織の接続関係情報と前記組織構成員の所属情報とに基づいて、当該各組織が階層表現され、かつ個々の組織構成員が何処の組織に所属するかを明示した組織図が作成されて表示され、位置指定手段により、この表示された組織図上で、対象とする組織の表示位置が指定され、指示手段により、組織構成員に関する個人情報を利用した検索条件が指示されると、抽出手段により、この指示された検索条件に合致する組織構成員が前記個人除法記憶手段から抽出されるとともに、識別表示手段により、この抽出された組織構成員の表示位置が識別表示される。

【0012】したがって、階層表示された組織図上の検索対象部署内で検索条件に合致する組織構成員を把握し

易く表示することができ、人事情報データベースを利用したデータ照会機能の向上と有効利用を図ることができる。

【0013】

【実施例】以下、図1～図13を参照して本発明の実施例を詳細に説明する。図1～図13は、本発明を適用したコンピュータシステムの一実施例を示す図である。まず、構成を説明する。図1は、コンピュータシステム1の要部ブロック構成図である。この図1において、コンピュータシステム1は、CPU2、キー入力部3、ポインティングデバイス4、ROM5、RAM6、照会処理制御部7、組織図作成処理部8、ファイルメモリ9、イメージメモリ10、印刷部11及び表示部12により構成されており、各部はバス13に接続されている。

【0014】CPU (Central Processing Unit) 2は、ROM5に格納されている各種制御プログラムに従ってコンピュータシステム1内の各部を制御して各種情報処理を実行し、その処理過程及び処理結果を表示部11に表示させる。

【0015】また、CPU2は、後述する照会処理に際して組織図作成処理部8により階層表作成処理及び階層イメージ展開処理を実行させて、ファイルメモリ9内の所属テーブルファイル9a及び社員マスタファイル9bに格納された組織に係る各種データに基づいて階層表を作成させてイメージメモリ10に展開させて表示部12に表示させた後、照会処理制御部7により、ポインティングデバイス4による表示位置指定に応じて指定社員の顔イメージあるいは個人情報を顔写真ファイル9cあるいは社員マスタファイル9bから読み出して組織図上に表示させ、また、ポインティングデバイス4による終了位置指定に応じて検索対象範囲を特定し、その検索対象範囲で入力された検索条件に該当するデータを社員マスタファイル9b内で検索し、その検索結果に基づいて組織図上の該当社員名の表示色を変更表示させる。

【0016】キー入力部3は、カーソルキー、数字入力キー及び各種機能キー等を備え、押下されたキーの押下信号をCPU2に出力する。ポインティングデバイス4は、キー入力部3の入力補助を行うポインティングデバイスであり、操作信号をCPU2に出力する。

【0017】ROM (Read Only Memory) 5は、CPU2より実行される各種制御プログラムを格納するとともに、照会処理プログラム及びその照会処理に際して組織図作成処理部8により実行される階層表作成処理プログラム及び階層イメージ展開処理プログラムを格納する。RAM (Random Access Memory) 6は、CPU2が上記各種処理プログラムを実行する際に各種データを展開するメモリ領域を形成する。

【0018】照会処理制御部7は、CPU2により実行される照会処理に際して、ポインティングデバイス4による表示位置指定に応じて指定社員の顔イメージあるい

は個人情報と顔写真ファイル9cあるいは社員マスタファイル9bから読み出して組織図上への表示、また、ポインティングデバイス4による終了位置指定に応じて検索対象範囲を特定し、その検索対象範囲で入力された検索条件に該当するデータを社員マスタファイル9b内で検索し、その検索結果に基づいて組織図上の該当社員名の表示色の変更を、制御する。

【0019】組織図作成処理部8は、CPU2により照会処理が実行される際に、後述する階層表作成処理及び階層イメージ展開処理を実行して、ファイルメモリ9内の所属テーブルファイル9a及び社員マスタファイル9bに格納された組織に係る各種データに基づいて階層表を作成して階層表メモリ9aに格納し、この階層表メモリ8aに格納した階層表に基づいて階層図イメージデータを階層数カウンタ8bを利用してイメージメモリ10に展開した後、その展開した組織階層図イメージを表示部12に表示する。

【0020】ファイルメモリ9は、図1に示すように所属テーブルファイル9a、社員マスタファイル9b及び顔写真ファイル9cを格納する。この所属テーブルファイル9aは、図2に示すように組織の構成要素である所属部署に係る各種情報を組織の階層構造と関連付けて格納するテーブルであり、所属コード、所属名、上位所属コード（当該所属部署が直属する上位部署コード）、階層番号（階層位置を示す）及び所属長社員番号の各情報を関連づけて記憶している。また、この社員マスタファイル9bは、図3に示すように所属部署の社員に係る各種情報を所属テーブルファイル9aの所属コードと関連付けて格納するマスタファイルであり、社員番号、氏名、所属コード、個人情報として役職、入社年月日、年齢及び家族の各情報を関連付けて記憶している。さらに、顔写真ファイル9cは、社員マスタファイル9bに記憶されている社員番号に対応して顔写真データを記憶している。

【0021】イメージメモリ10は、組織図作成処理部8により作成された組織処理図のイメージデータを所属部署毎にブロック単位で展開するメモリエリアを形成する。印刷部11は、CPU2から入力される印字データを所定の記録紙に印字して出力し、表示部12は、CRT (Cathode Ray Tube) 等により構成され、CPU2から入力される表示データを表示する。

【0022】次に、本実施例の動作を説明する。本実施例のコンピュータシステム1により実行される照会処理について図4に示すフローチャートに基づいて説明する。図4において照会処理を開始すると、まず、組織図作成処理部8によりファイルメモリ9内の所属テーブルファイル9a及び社員マスタファイル9bに格納された組織に係る各種データに基づいて階層表作成処理を実行する（ステップS1）。この階層表作成処理について図5に示すフローチャートに基づいて説明する。

【0023】まず、階層表メモリ7aに展開する図6に示す階層表の1行目を指定し（ステップS101）、上位所属コードのない所属コードを図2に示した所属テーブルファイル9aから検索し、その検索した所属コードをRAM6内のレジスタSHOに格納する（ステップS102）。図2の所属テーブルファイル9aの場合は、所属コード100が上位所属コードのない所属コードに該当するため、この所属コード100がレジスタSHOに格納される。

【0024】次いで、そのレジスタSHOに格納した所属コード100の階層番号“1”及び所属名“時計事業部”を所属テーブルファイル9aから読み出し、その読み出した各データをステップS101で指定した図6に示す階層表の1行目にセットする（ステップS103）。次いで、所属テーブルファイル9aの該当する所属長社員番号0100に基づいて図3に示した社員マスタファイル9bを参照し、所属長氏名“A”を図6の階層表の指定行の1行目にセットする（ステップS104）。

【0025】次いで、図6の階層表の次行である2行目を指定して（ステップS105）、社員マスタファイル9bに同一所属の社員データが他に有るか否かをチェックする（ステップS106）。同一所属の社員データが有る場合は、該当社員データの氏名を社員マスタファイル9bから読み出してステップS105で指定した階層表の2行目にセットして（ステップS107）、ステップS105に戻る。

【0026】また、同一所属の社員データがない場合は、図3の社員マスタファイル9bでは同一所属コード100の社員データが他にないため、ステップS102でRAM6内のレジスタSHOに格納した所属コード100を上位所属とする未検索の所属コードを所属テーブルファイル9aから検索し（ステップS108）、その検索結果により該当する所属コードが有るか否かを判別する（ステップS109）。該当する所属コードがない場合は、RAM6内のレジスタSHOに格納した所属コード100の上位所属コードを所属テーブルファイル9aから検索し（ステップS110）、その検索結果により該当する所属コードが有るか否かを判別する（ステップS111）。

【0027】該当する所属コードがない場合は、本処理を終了し、該当する所属コードが有る場合は、その検索した所属コードをRAM6内のレジスタSHOに格納して（ステップS112）、ステップS108に戻る。

【0028】また、ステップS109において、該当する所属コードが有る場合、すなわち、図2の所属テーブルファイル9aでは、所属コード100を上位所属とする所属コード110が2行目に有るため、その該当所属コード110をRAM6内のレジスタSHOに格納して（ステップS113）、ステップS103に戻る。

【0029】ステップS103に戻り、ステップS113でレジスタSHOに格納した所属コード110の階層番号“2”及び所属名“開発部”を所属テーブルファイル9aから読み出し、その読み出した各データを上記ステップS105で指定した図6の階層表の2行目にセットする。次いで、所属テーブルファイル9aの該当する所属長社員番号0501に基づいて図3の社員マスタファイル9bを参照し、所属長氏名“B”を図6の階層表の指定行の2行目にセットする（ステップS104）。その結果、図6の階層表の2行目に示すようにデータが展開される。

【0030】次いで、図6の階層表の次行である3行目を指定し（ステップS105）、社員マスタファイル9bに同一所属110の社員データが他に有るか否かをチェックする（ステップS106）。図3の社員マスタファイル9bには同一所属110の社員データが他にないため、上記ステップS113でRAM6内のレジスタSHOに格納した所属コード110を上位所属とする未検索の所属コードを所属テーブルファイル9aから検索し（ステップS108）、その検索結果により該当する所属コードが有るか否かを判別する（ステップS109）。

【0031】図2の所属テーブルファイル9aには所属コード110を上位所属とする所属コード111が有るため、その所属コード111をRAM6内のレジスタSHOに格納して（ステップS113）、ステップS103に戻る。ステップS103に戻り、ステップS113でレジスタSHOに格納した所属コード111の階層番号“3”及び所属名“開発課”を所属テーブルファイル9aから読み出し、その読み出した各データを上記ステップS105で指定した図6の階層表の3行目にセットする。次いで、所属テーブルファイル9aの該当する所属長社員番号1201に基づいて図3の社員マスタファイル9bを参照し、所属長氏名“E”を図6の階層表の指定行の3行目にセットする（ステップS104）。その結果、図6の階層表の3行目に示すようにデータが展開される。

【0032】次いで、図6の階層表の次行である4行目を指定し（ステップS105）、社員マスタファイル9bに同一所属の社員データが他に有るか否かをチェックする（ステップS106）。図3の社員マスタファイル9bには同一所属111の社員データとして社員番号2501が有るため、その該当社員データの氏名“I”を図6の階層表の4行目にセットし（ステップS107）、ステップS105に戻る。

【0033】ステップS105に戻り、図6の階層表の次行の5行目を指定し、社員マスタファイル9bに同一所属の社員データが他に有るか否かをチェックする（ステップS106）。図3の社員マスタファイル9bには同一所属111の社員データとして、さらに社員番号2

502が有るため、その該当社員データの氏名“J”を図6の階層表の5行目にセットし（ステップS107）、ステップS105に戻る。

【0034】ステップS105に戻り、図6の階層表の次行の6行目を指定し、社員マスタファイル9bに同一所属の社員データが他に有るか否かをチェックする（ステップS106）。図3の社員マスタファイル9bには同一所属111の社員データとして上記社員番号2501、2502以外にないため、上記ステップS113でRAM6内のレジスタSHOに格納した所属コード111を上位所属とする未検索の所属コードを所属テーブルファイル9aから検索し（ステップS108）、その検索結果により該当する所属コードが有るか否かを判別する（ステップS109）。

【0035】図2の所属テーブルファイル9aには所属コード111を上位所属とする所属コードがないため、レジスタSHOに格納した所属コード111の上位所属コードを所属テーブルファイル9aから検索し（ステップS110）、その検索結果により該当する所属コードが有るか否かを判別する（ステップS111）。所属コード111の上位所属コードとして所属コード110が有るため、その所属コード110をレジスタSHOに格納し（ステップS112）、ステップS108に戻る。

【0036】そして、ステップS108～ステップS112の処理を繰り返すことにより、レジスタSHOに所属コード100を格納すると、ステップS108、S109で所属コード100を上位所属とする未検索の所属コードとして、所属コード120を図2の所属テーブルファイル9aから検索し、その所属コード120をレジスタSHOに格納してステップS103に戻る。

【0037】そして、上記ステップS103～ステップS107を繰り返し実行されることにより、図6の階層表において7行目、8行目に所属コード120に係るデータとして階層番号“2”、上位階層“1”、所属名“設計部”、所属長名“C”及び所属員名“K”が展開される。

【0038】さらに、上記ステップS103～ステップS113が繰り返し実行されることにより、図6の階層表において9行目以降の各データが、図2の所属テーブルファイル9a及び図3の社員マスタファイル9bに基づいて展開されて、階層表作成処理が終了する。

【0039】この階層表作成処理が終了すると、図4の階層図表示処理においてステップS1からステップS2の階層イメージ展開処理に進む。この組織図作成処理部7により実行される階層イメージ展開処理について図7に示すフローチャートに基づいて説明する。

【0040】まず、階層イメージを展開する位置を設定する際に利用する階層数カウンタ7bの横方向カウンタmに“1”をセットし、縦方向カウンタnに“0”をセットする（ステップS201）。次いで、図6の階層表

の先頭ブロックを指定し（ステップS202）、その指定ブロックの階層番号が上記縦方向カウンタnにセットした数値より大きいかなかを判定する（ステップS203）。

【0041】この場合、図6の階層表の先頭ブロックの階層番号は“1”であり、ステップS201でセットした縦方向カウンタnの数値“0”より大きい。その指定した先頭ブロックの階層番号1を縦方向カウンタnにセットする（ステップS204）。そして、その指定した図6の階層表の階層番号1に該当するブロックに展開されたデータ（所属名：時計事業部、所属長名：A）に基づいてブロックイメージを生成し（ステップS205）、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標（1, 1）の展開ブロック位置に、階層番号1ブロックから生成したブロックイメージをセットする（ステップS206）。そして、この生成したブロックイメージの位置情報（位置番号及び行）を階層表メモリ8aにもセットする（ステップS207）。

【0042】このイメージメモリ10内の図8に示す階層イメージ展開エリアは、階層数カウンタ7b内の縦方向カウンタmと横方向カウンタnによりカウントされるカウント数に対応する座標（m, n）で示されるブロック単位の階層表データ展開エリアを形成している。この各ブロック内は図9に示すように、所属名と、その所属名の下に4行分の各データ（1行目：所属長名、2行目～4行目：所属員氏名）を展開するようになっている。そして、この図8のブロック単位の階層表データ展開エリアには、図6の階層表の階層番号で区切られるブロック単位のデータが展開される。

【0043】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号1で区切られる先頭ブロックに上位階層データがセットされているかなかをチェックする（ステップS208）。その先頭ブロックには上位階層データがセットされていないため、ステップS211に進み、図6の階層表の先頭ブロックの次の階層番号のブロックを指定して、次ブロックが有るかなかを判別する（ステップS211）。図6の階層表には先頭ブロックの次に階層番号2で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0044】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“2”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタnにセットした数値“1”より大きい。その指定ブロックの階層番号“2”を縦方向カウンタnにセットする（ステップS204）。そして、図6の階層表の階層番号2ブロックに展開されたデータ（所属名：開発部、所属長名：B）に基づいてブロックイメージを生成し（ステップS205）、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標（1, 2）のブロック位置に、階層番号

2ブロックから生成したブロックイメージをセットする（ステップS206）。そして、この生成したブロックイメージの位置情報（位置番号及び行）を階層表メモリ8aにもセットする（ステップS207）。

【0045】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号2ブロックに上位階層データがセットされているかなかをチェックする（ステップS208）。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“1”がセットされているため、その上位階層“1”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し（ステップS209）、その検索した上位階層ブロックのイメージと線分イメージで当該ブロックイメージを図8に示すように結合する（ステップS210）。

【0046】次いで、図6の階層表の階層番号2ブロックの次のブロックを指定して（ステップS211）、次ブロックが有るかなかを判別する（ステップS212）。図6の階層表には階層番号3で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0047】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“3”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタnにセットした数値“2”より大きい。その指定ブロックの階層番号“3”を縦方向カウンタnにセットする（ステップS204）。そして、その階層番号3ブロックに展開されたデータ（所属名：開発課、所属長名：E、所属員氏名：I, J）に基づいてブロックイメージを生成し（ステップS205）、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標（1, 3）のブロック位置に、階層番号3ブロックから生成したブロックイメージをセットする（ステップS206）。そして、この生成したブロックイメージの位置情報（位置番号及び行）を階層表メモリ8aにもセットする（ステップS207）。

【0048】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号3ブロックに上位階層データがセットされているかなかをチェックする（ステップS208）。図6の階層番号3ブロックには上位階層データとして“2”がセットされているため、その上位階層“2”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し（ステップS209）、その検索した上位階層ブロックのイメージと線分イメージで階層番号3ブロックイメージを図8に示すように結合する（ステップS210）。

【0049】次いで、図6の階層表の階層番号3ブロックの次のブロックを指定して（ステップS211）、次ブロックが有るかなかを判別する（ステップS212）。図6の階層表には階層番号2で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0050】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“2”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタnにセットした数値“3”より小

11

さいため、横方向カウンタ m をアップカウント($m+1 \rightarrow m$)して $m=2$ とし(ステップS312)、その指定ブロックの階層番号“2”を縦方向カウンタ n にセットする(ステップS204)。そして、その階層番号2ブロックに展開されたデータ(所属名:設計部、所属長名:C、所属員氏名:K)に基づいてブロックイメージを生成し(ステップS205)、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標(2, 2)のブロック位置に、階層番号2ブロックから生成したブロックイメージをセットする(ステップS206)。そして、この生成したブロックイメージの位置情報(位置番号及び行)を階層表メモリ8aにもセットする(ステップS207)。

【0051】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号2ブロックに上位階層データがセットされているか否かをチェックする(ステップS208)。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“1”がセットされているため、その上位階層“1”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し(ステップS209)、その検索した上位階層ブロックのイメージと

線分イメージで階層番号2ブロックイメージを図8に示すように結合する(ステップS210)。

【0052】次いで、図6の階層表の階層番号2ブロックの次のブロックを指定して(ステップS211)、次ブロックが有るか否かを判別する(ステップS212)。図6の階層表には階層番号2で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0053】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“2”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタ n にセットした数値“2”と同じであるため、横方向カウンタ m をアップカウント($m+1 \rightarrow m$)して $m=3$ とし(ステップS212)、その指定ブロックの階層番号“2”を縦方向カウンタ n にセットする(ステップS204)。そして、その階層番号2ブロックに展開されたデータ(所属名:営業部、所属長名:D)に基づいてブロックイメージを生成し(ステップS205)、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標(3, 2)のブロック位置に、階層番号2ブロックから生成したブロックイメージをセットする(ステップS206)。そして、この生成したブロックイメージの位置情報(位置番号及び行)を階層表メモリ8aにもセットする(ステップS207)。

【0054】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号2ブロックに上位階層データがセットされているか否かをチェックする(ステップS208)。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“1”がセットされているため、その上位階層“1”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し(ステップS209)、その検索した上位階層ブロックのイメージと

12

線分イメージで階層番号2ブロックイメージを図8に示すように結合する(ステップS210)。

【0055】次いで、図6の階層表の階層番号2ブロックの次のブロックを指定して(ステップS211)、次ブロックが有るか否かを判別する(ステップS212)。図6の階層表には階層番号3で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0056】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“3”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタ n にセットした数値“2”より大きいため、その指定ブロックの階層番号“3”を縦方向カウンタ n にセットする(ステップS204)。そして、その階層番号3ブロックに展開されたデータ(所属名:第1営業課、所属長名:F、所属員氏名:L)に基づいてブロックイメージを生成し(ステップS205)、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標(3, 3)のブロック位置に、階層番号3ブロックから生成したブロックイメージをセットする(ステップS206)。そして、この生成したブロックイメージの位置情報(位置番号及び行)を階層表メモリ8aにもセットする(ステップS207)。

【0057】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号3ブロックに上位階層データがセットされているか否かをチェックする(ステップS208)。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“2”がセットされているため、その上位階層“2”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し(ステップS209)、その検索した上位階層ブロックのイメージと線分イメージで階層番号3ブロックイメージを図8に示すように結合する(ステップS210)。

【0058】次いで、図6の階層表の階層番号3ブロックの次のブロックを指定して(ステップS211)、次ブロックが有るか否かを判別する(ステップS212)。図6の階層表には階層番号3で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0059】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“3”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタ n にセットした数値“3”と同じであるため、横方向カウンタ m をアップカウント($m+1 \rightarrow m$)して $m=4$ とし(ステップS212)、その指定ブロックの階層番号“3”を縦方向カウンタ n にセットする(ステップS204)。そして、その階層番号3ブロックに展開されたデータ(所属名:第2営業課、所属長名:G、所属員氏名:M)に基づいてブロックイメージを生成し(ステップS205)、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標(4, 3)のブロック位置に、階層番号3ブロックから生成したブロックイメージをセットする(ステップS206)。そして、この生成したブロックイメージ

の位置情報(位置番号及び行)を階層表メモリ8aにもセットする(ステップS207)。

【0060】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号3ブロックに上位階層データがセットされているか否かをチェックする(ステップS208)。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“2”がセットされているため、その上位階層“2”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し(ステップS209)、その検索した上位階層ブロックのイメージと線分イメージで階層番号3ブロックイメージを図8に示すように結合する(ステップS210)。

【0061】次いで、図6の階層表の階層番号3ブロックの次のブロックを指定して(ステップS211)、次ブロックが有るか否かを判別する(ステップS212)。図6の階層表には階層番号3で区切られるブロックが有るため、ステップS203に戻る。

【0062】ステップS203において、その指定した次ブロックの階層番号“3”が上記ステップS204の処理で縦方向カウンタnにセットした数値“3”と同じであるため、横方向カウンタmをアップカウント(m+1→m)してm=5とし(ステップS212)、その指定ブロックの階層番号“3”を縦方向カウンタnにセットする(ステップS204)。そして、その階層番号3ブロックに展開されたデータ(所属名:第3営業課、所属長名:H、所属員氏名:N)に基づいてブロックイメージを生成し(ステップS205)、イメージメモリ10内の図8に示すような階層イメージ展開エリアにおいて座標(5,3)のブロック位置に、階層番号3ブロックから生成したブロックイメージをセットする(ステップS206)。そして、この生成したブロックイメージの位置情報(位置番号及び行)を階層表メモリ8aにもセットする(ステップS207)。

【0063】次いで、上記指定した図6の階層表の階層番号3ブロックに上位階層データがセットされているか否かをチェックする(ステップS208)。図6の階層番号2ブロックには上位階層データとして“2”がセットされているため、その上位階層“2”に該当するブロック位置を図8の階層イメージ内で検索し(ステップS209)、その検索した上位階層ブロックのイメージと線分イメージで階層番号3ブロックイメージを図8に示すように結合する(ステップS210)。

【0064】次いで、図6の階層表の階層番号3ブロックの次のブロックを指定して(ステップS211)、次ブロックが有るか否かを判別する(ステップS212)。図6の階層表には次ブロックがないため、図8に示す階層イメージ展開処理を終了する。

【0065】そして、図4のステップS3において、上記階層イメージ展開処理によりイメージメモリ10に展開した組織階層イメージデータを表示部11により表示させた後、ポインティングデバイス4による組織階層イ

メージ上の表示位置指定を確認する(ステップS4)。この表示位置指定が社員位置か否かを判別する(ステップS5)。社員位置であると判別した場合は、その社員位置に対応する位置情報に関連付けて階層表メモリ8aに格納されている氏名を特定し(ステップS6)、その指定社員について表示する情報種類(顔イメージか個人情報)を選択するメニューを表示部12に表示中の組織階層イメージ上に表示する(ステップS7)。

【0066】この表示情報種類メニュー表示において“顔イメージ”が選択された場合は、社員マスタファイル9bの該当氏名から社員番号を指定し(ステップS8)、その社員番号に対応する顔イメージを顔写真ファイル9cから呼び出し(ステップS9)、その顔イメージを図10に示すようにサブウィンドウ内に表示して(ステップS10)、ステップS4に戻る。

【0067】また、ステップS7の表示情報種類メニュー表示において“個人情報”が選択された場合は、社員マスタファイル9bの該当社員の個人情報を呼び出して(ステップS11)、その個人情報を図11に示すようにサブウィンドウ内に表示して(ステップS10)、ステップS4に戻る。

【0068】また、ステップS5において、表示位置指定が社員位置でないと判別した場合は、終了位置指定を促し、終了位置が指定されると(ステップS12)、その指定された終了位置で囲まれる組織階層イメージ上の図12に示すような指定範囲のブロックを検索対象範囲として特定する(ステップS13)。次いで、その指定範囲内で検索条件の入力を促し、検索条件(例えば、入社年月等)が入力されると(ステップS14)、社員マスタファイル9b内で入力された検索条件(入社年月)に基づいて検索処理を行う(ステップS15)。

【0069】そして、検索条件に合致する社員のうち上記検索対象範囲として特定された階層ブロック内の該当社員に対応する階層表メモリ8a内の図6に示すデータ行の検索フラグ欄にフラグをセットし(ステップS16)、図13に示すように、表示した組織階層イメージ上で、そのフラグをセットした社員名の表示部分の表示色を変更して表示し(ステップS17)、ステップS4に戻る。なお、階層表メモリ8a内のデータ行の検索フラグ欄にセットされたフラグは、新たに検索条件が入力されて検索処理が開始される際にリセットされる。

【0070】以上のように、照会処理が繰り返し実行されることにより、表示部12に表示された組織階層イメージ上で指定社員の顔イメージや個人情報を確認することができる。したがって、組織全体の中での指定社員の位置付けと、その指定社員の個人情報及び対象社員の間を同一画面内で表示することができ、操作者に対して照会情報を把握し易く表示することができる。

【0071】その結果、人事情報データベースを検索す

るデータ照会機能を有するアプリケーションプログラムに、上記照会処理機能を付加することにより、その人事情報データベースを利用するアプリケーションプログラムのデータ照会機能の向上と有効利用を図ることができる。

【0072】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、階層表示された組織図上で指定した構成員の個人情報を同時に表示することができ、組織上の位置と個人情報の関係を把握し易く表示することができ、人事情報データベース

を利用したデータ照会機能の向上と有効利用を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を適用したコンピュータシステムの要部ブロック構成図。

【図2】図1の所属テーブルファイルに格納されるテーブルのデータ構成の一例を示す図。

【図3】図1の社員マスタファイルに格納されるマスタファイルのデータ構成の一例を示す図。

【図4】本実施例のコンピュータシステムにより実行される照会処理のフローチャート。

【図5】図1の組織図作成処理部により図4の照会処理に際して実行される階層表作成処理のフローチャート。

【図6】図5の階層表作成処理により図1の階層表メモリに格納されるデータの一例を示す図。

【図7】図1の組織図作成処理部により図4の組織図表示処理に際して実行される階層イメージ展開処理のフローチャート。

【図8】図7の階層イメージ展開処理により図1のイメ

ージメモリに展開された階層表のブロックイメージを示す図。

【図9】図8の階層イメージ展開エリア内のブロック単位に展開される階層データの内容を示す図。

【図10】図4の照会処理において組織階層イメージの社員位置が指定されて顔イメージ表示が選択された場合の表示例を示す図。

【図11】図4の照会処理において組織階層イメージの社員位置が指定されて個人情報表示が選択された場合の表示例を示す図。

【図12】図4の照会処理において組織階層イメージの検索対象範囲が指定された場合の表示例を示す図。

【図13】図12の検索対象範囲において検索条件に合致する社員名の表示色を変更して表示した状態を示す図。

【符号の説明】

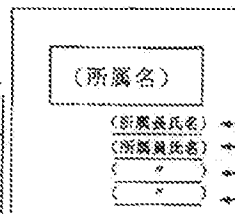
- 1 コンピュータシステム
- 2 CPU
- 3 キー入力部
- 4 ポインティングデバイス
- 5 ROM
- 6 RAM
- 7 照会処理制御部
- 8 組織図作成処理部
- 8a 階層表メモリ
- 8b 階層数カウンタ
- 9 ファイルメモリ
- 9a 所属テーブルファイル
- 9b 社員マスタファイル
- 9c 顔写真ファイル
- 10 イメージメモリ
- 11 印刷部
- 12 表示部
- 13 バス

【図2】

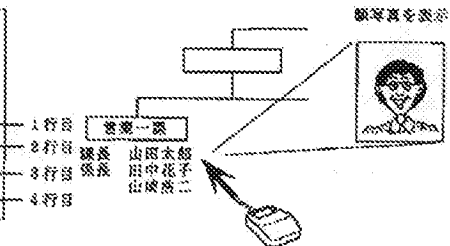
所属テーブル

所属コード	所属名	上位所属コード	階層番号	所属社員番号
100	時計事業部		1	0100
110	開発部	100	2	0501
120	設計部	100	2	0601
130	営業部	100	2	0701
111	開発課	110	3	1201
131	第1営業課	130	3	1500
132	第2営業課	130	3	1622
133	第3営業課	130	3	1701

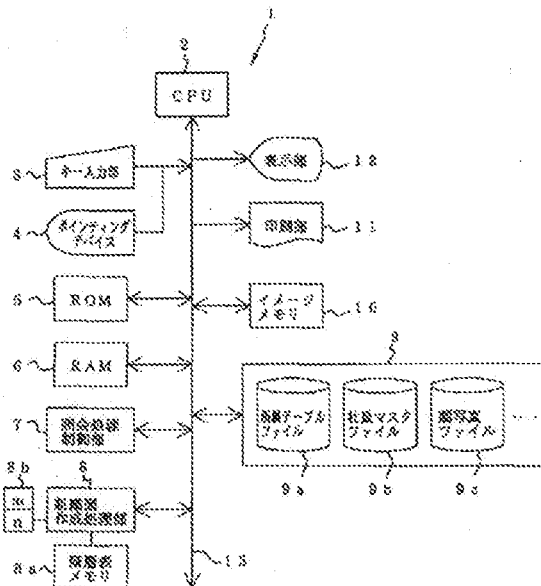
【図9】



【図10】



【図1】



【図3】

社員マスタ

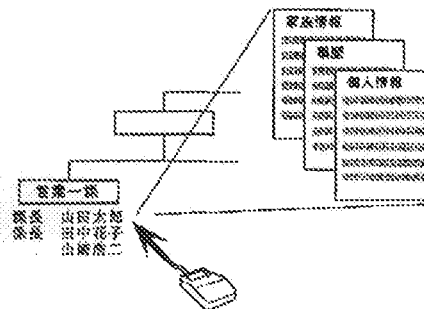
社員番号	氏名	所属コード	個人情報			
			役職	入社年月	年齢	家族
0100	A	100	専業主婦			
0201	B	110	部長			
0301	C	120	次長			
0701	D	130	部長			
1201	E	111	部長			
1500	F	131	部長			
1822	G	132	部長			
1701	H	123	部長			
2501	I	111				
2502	J	111				
2503	K	120				
2504	L	131				
2505	M	132				
2506	N	133				

【図6】

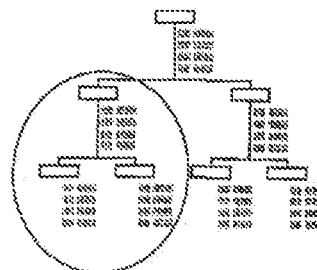
階層表メモリ

階層番号	上位階層	所属名	所属番号	氏名	役職番号	行	列
1			A		(1, 1)	1	
2	1	部長部	B		(1, 2)	1	
3	2	部長部	E		(1, 3)	1	
			I			2	
			J			3	
2	1	部長部	C		(2, 2)	1	
			K			2	
2	1	部長部	D		(3, 2)	1	
3	2	第1部長部	F		(3, 3)	1	
			L			2	
3	2	第2部長部	G		(4, 3)	1	
			M			2	
3	2	第3部長部	H		(5, 3)	1	
			N			2	

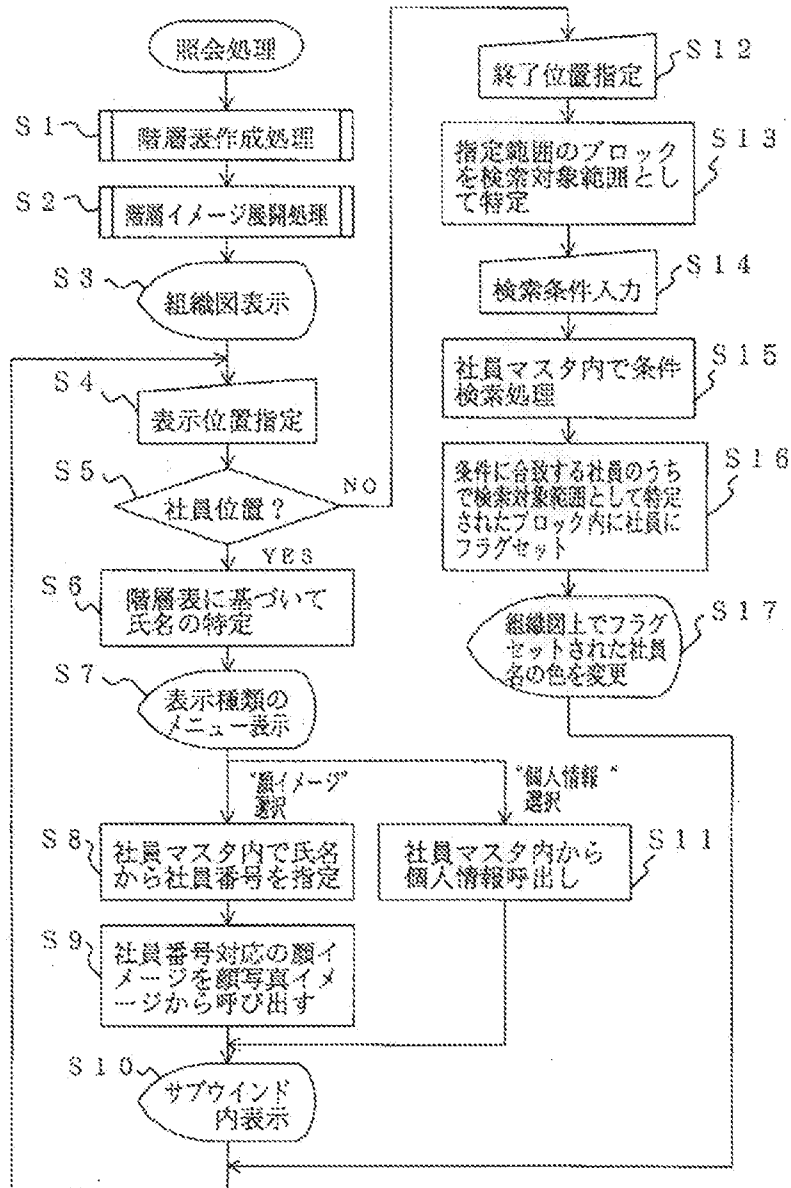
【図11】



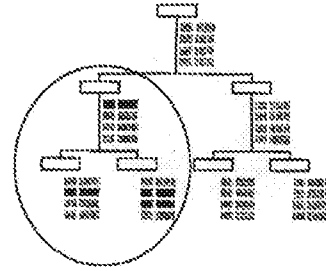
【図12】



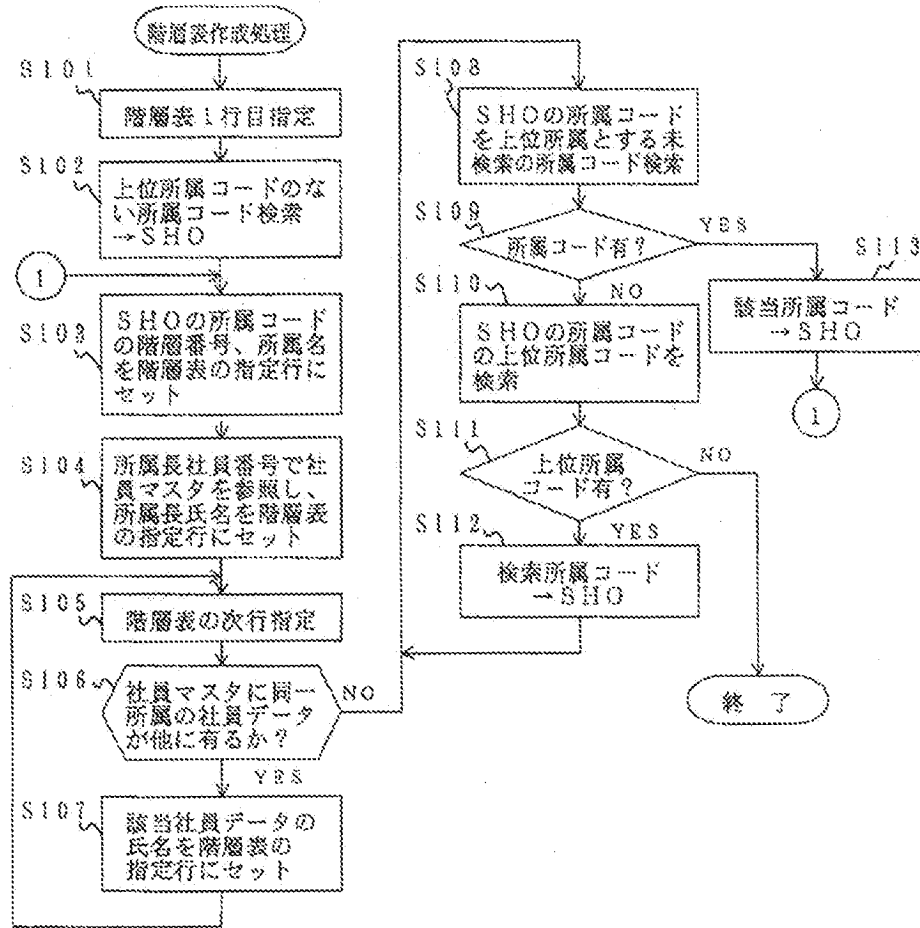
【図4】



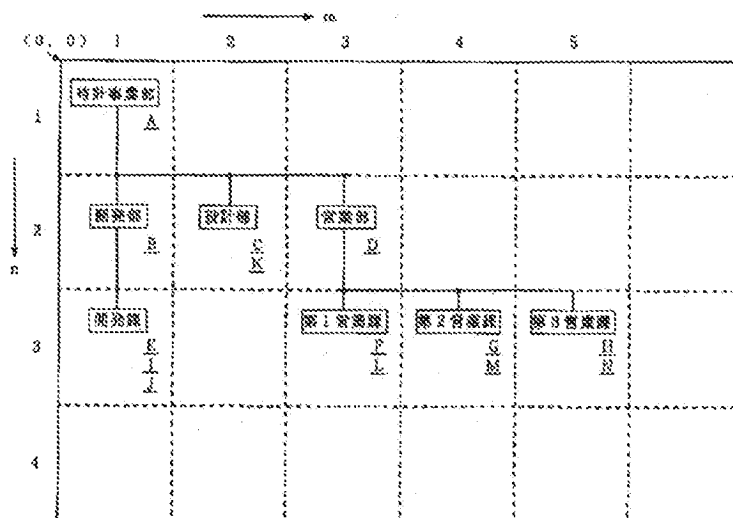
【図13】



【図5】



【図8】



【図7】

